

飯伊 産業経済動向

No.449 2016/8
(28.9.25 発行)



http:// www. iidashinkin. co. jp
〒395-0044 飯田市本町1-2
TEL 0265-53-5811 FAX 0265-53-1132

飯伊地区主要経済指標

| 主要指標 | | 実数 | 前月比 | 前年同月比 |
|--------------------------------------|--------|--------------|-------------|------------------|
| 手形交換高 (飯田手形交換所扱) | 枚数 | 4,456 枚 | 33.7 % | 6.1 % |
| | 金額 | 5,177,038 千円 | 48.1 % | 0.4 % |
| うち不渡発生状況 | 枚数 | 0 枚 | (前月 0 枚) | (前年同月 46 枚) |
| | 金額 | 0 千円 | (前月 0 千円) | (前年同月 29,754 千円) |
| 倒産件数 (負債額1千万円以上) | 県内 | 8 件 | (前月 9 件) | (前年同月 5 件) |
| | 飯伊 | 1 件 | (前月 0 件) | (前年同月 0 件) |
| 住宅着工戸数 (飯田市、下伊那郡 総数)(7月) | | 58 戸 | △ 9.4 % | 9.4 % |
| 有効求人倍率(パートを含む実数) (ハローワーク飯田管内)(7月) | | 1.38 倍 | (前月 1.32 倍) | (前年同月 1.24 倍) |
| 自動車新規登録台数 (松本事務所管内) | 新車 | 1,697 台 | △ 18.4 % | △ 9.4 % |
| | 中古車 | 551 台 | △ 3.0 % | △ 1.4 % |
| 軽自動車新規登録台数 (長野県自動車協会)(7月) | 新車 | 3,529 台 | 3.3 % | △ 1.7 % |
| | 中古車 | 865 台 | △ 17.2 % | △ 2.5 % |
| 中央道利用台数 (飯田インター分) | 入 | 129,643 台 | 9.4 % | 1.1 % |
| | 出 | 127,865 台 | 7.6 % | △ 1.7 % |
| 中央道利用台数 (松川インター分) | 入 | 85,623 台 | 8.1 % | 1.1 % |
| | 出 | 82,892 台 | 8.3 % | 1.4 % |
| 中央道利用台数 (園原インター分) | 入 | 20,601 台 | 39.1 % | △ 19.9 % |
| | 出 | 20,391 台 | 44.3 % | △ 17.1 % |
| 中央道利用台数 (飯田山本インター分) | 入 | 54,713 台 | 25.2 % | 0.0 % |
| | 出 | 57,332 台 | 30.9 % | 2.0 % |
| 信用保証協会 新規保証件数 (飯田支店管内) | | 149 件 | △ 18.1 % | △ 8.0 % |
| 信用保証協会 代位弁済件数 (飯田支店管内) | | 8 件 | (前月 7 件) | (前年同月 13 件) |
| 高速バス乗車人数 | 飯田～新宿 | 36,140 人 | 36.3 % | △ 5.2 % |
| | 飯田～名古屋 | 22,181 人 | 25.9 % | 5.5 % |
| | 飯田～長野 | 10,273 人 | 3.0 % | △ 5.4 % |
| 市内循環バス乗車人数 | 左回り | 3,559 人 | 2.2 % | 2.5 % |
| | 右回り | 3,687 人 | 5.7 % | 4.1 % |

◆ 本誌内容は飯田信用金庫ホームページ (<http://www.iidashinkin.co.jp>) に全文掲載しています ◆

本誌は、当相談所が信頼できると考えるデータに基づき作成されておりますが、データ、記述の正確性、完全性を保証するものではありません。御利用に当たってはご自身の判断によってください。

しんきんは環境にやさしい取り組みを地元のみなさまとともに進めています。



100%植物性インキ
[リチウム]100%を使用しました。

再生紙を
使用しています

概況

製造業

8月の製造業の業況判断指数(DI)は、マイナス13.3で、前月から8.1ポイント上昇。翌月予測は0.0で、前月から12.9ポイント上昇している。

電子部品やモーター制御向け基板など電気・精密機械器具の販売は、前月比横ばい～やや増加。一部に景況感が好転した業者も見受けられた。半導体、液晶製造装置向け部品の販売の前月比は、一部に「海外の事情で急激に増産」との声もあるものの、「高機能製品向けで増産しているほかFPD関連も良好だが、スマホ関連の停滞が継続しており、総じて受注、販売とも減少」など減少～やや減少との声が多い。産業機器、医療機器等部品の受注の前月比は、「新規顧客の開拓」など、増加ないしはやや増加との声も複数あるが、やや減少～横ばいとの声が多く、「産業用機械関連は急激な増産も、一部製品は急激な減産。いずれも海外の事情が影響。総じて横ばい」「全体的に動きが鈍いとの声が多い」などの声。建築用金属製品の販売は、前月比、前年比とも減少との声。自動車向け部品の販売は、前月比、前年比ともに業者により増減分かれる。小型電磁機器の販売は、前月比概ね横ばい、景況感に動きは見られない。FA関連モーターでは、「産業機械向け、車載向けともにほぼ横ばいで推移」との声が寄せられた。レンズ、光学機器の生産は、前月比、前年比とも業者により増減分かれる。電気、電子製品の生産は、前月比増加との声が寄せられた。

地場産業

半生菓子、菓子原料等の売上は、前月比業者により増減分かれる。「個人消費は盛り上がらない」「伸びがない。秋の商戦が心配」などの声も寄せられたが、景況感の悪化には至っておらず、却って好転した業者も見受けられる。水引製品の受注、販売は、前月比、前年比とも増減分かれる。「当月の販売は減少しているが、正月飾りの注文が昨年より若干多く入っていて、結納品等の落ち込みをカバーしている状況」などの声。漬物の販売は、前月比やや増加も、前年比やや減少。「野菜の価格が比較的安定していたせいか、浅漬けの動きは良くなかった」との声が寄せられた。

建設業

8月の建設業の景況DIは、マイナス31.3で、前月から31.3ポイント下降。翌月予測DIは、0.0で、前月より5.9ポイント上昇している。

当地区における、当月の県、市町村発注工事の入札額合計は、約15.9億円で、前月比は18%増加、前年比も68%増加している。当月の調査先企業の受注残高の前月比は、増減いずれの声も寄せられたが、横ばいとする業者が多い。景況感が好転した業者は多くはないが、「8月に入り公共工事が出だした」などの声も寄せられた。

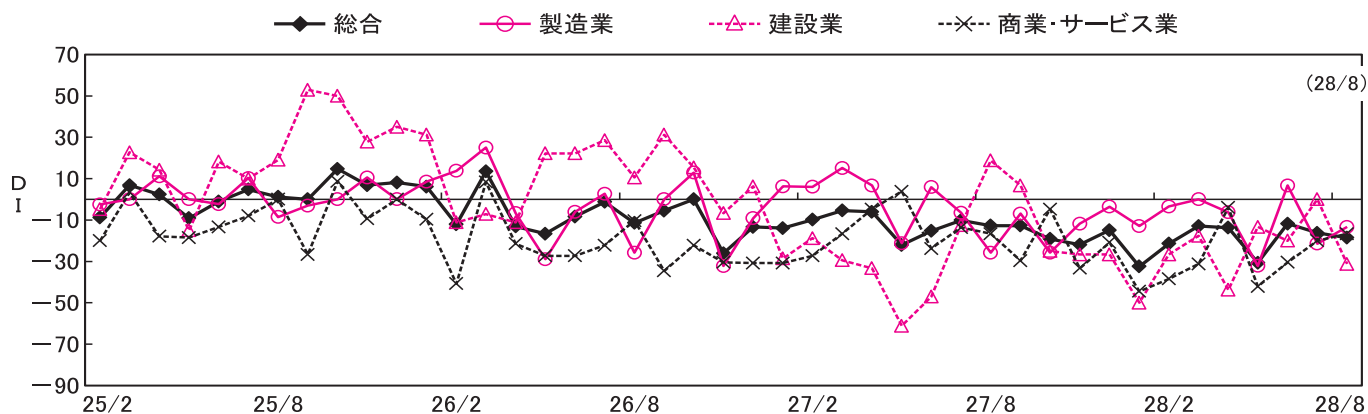
民需の住宅着工戸数(7月)の住宅着工戸数は58戸。前月比9%減少も、前年比は9%増加している。

当月の調査先業者の受注残高の前月比は、減少～横ばい。「民間も多少増えてきた」との声もあるものの、「住宅改修工事のみ」など景況感が好転した業者は見受けられない。

商業・サービス業

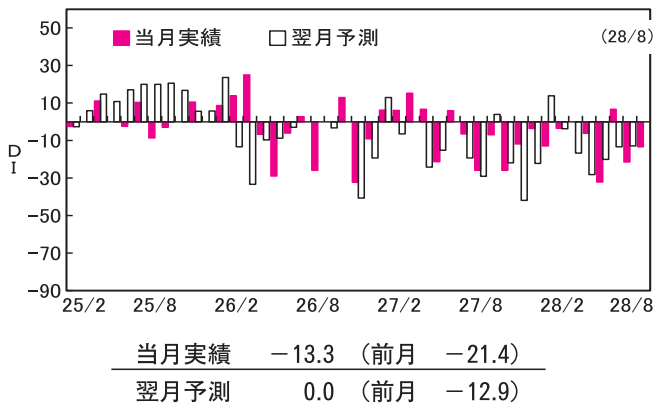
8月の商業・サービス業の景況DIは、マイナス16.7と、前月より3.3ポイント上昇。翌月予測DIも、マイナス8.7で、前月より5.6ポイント上昇している。食料品の売上の前年比は、業者により増減分かれる。製菓、製菓用品卸の売上は、前月比やや減少との声。家事用品卸の売上は、前月比やや減少、前年比やや増加。家電の売上は、前月比やや減少～横ばい。前年比はやや減少という。OA機器の売上は、前月比概ね横ばい、前年比は増加との声。衣料品の売上は、前月比、前年比ともにやや減少。娯楽用品の売上は、「夏休み、お盆」もあり前月比増加も、前年比はやや減少との声。土産物関連の売上は、前月比やや増加。景況感に分かれる。運輸業の売上は前月比横ばいとの声。松本自動車検査登録事務所管内の自動車新規登録台数は、新車は前月比18%減少、前年比も9%減少。7月の県全体の軽自動車新規登録台数は、新車は前月比3%増加も、前年比は2%減少。市内料理店の売上は、前年比やや減少。「前月に比べ宴会が少なかった。また、お盆の仕出しの注文が少ない。特に地方の景気は悪くなるのでは」などの声。昼神温泉の売上は、前月比、前年比ともに増加。「毎年の夏休み期間に加え星空ナイトツアー分が上積みされたため売上増加」など「星空ナイトツアー」による売上増加の声が多数。旅行代理店の売上は、前月比横ばい。「夏休みを利用した家族旅行などは沖縄、国内テーマパーク、ガムなどが中心で前年並みの売上」という。タクシーの売上は、前月比、前年比ともにやや増加も、「前年対比の落込みは落ち着きを見せているが、前年までの激しい落ち込みからの上向き感はなく感じられない」との声が寄せられた。

飯伊地区景況DI (本誌調査)



地区内製造業の景況判断指数

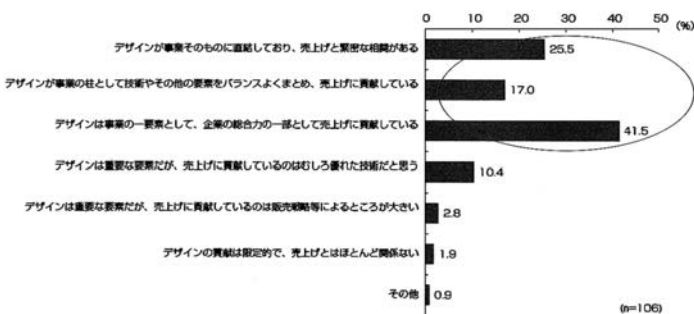
飯伊地区景況DI（製造業）



当月の製造業の業況判断指数（DI）は、マイナス13.3で、前月から8.1ポイント上昇。翌月予測は0.0で、前月から12.9ポイント上昇している。

「デザイナーの感性と手法を用いて、ユーザーのニーズと技術的な実現性、ビジネスとしての持続性を確保させていくことで、顧客価値をマーケット機会に変容させていく方法」「パラダイムを変えるような画期的なアイデアやサービスは、ユーザーの生活や体験に深くすみ込み、観察や体験を通じて洞察し、ユーザーの抱える課題やニーズを再定義することで生まれるが、その際有効な手法の一つ」といった定義が与えられることの多い「デザイン思考」について、経済産業省の2016年版ものづくり白書では、「アンケート調査の結果、デザインが事業運営や売り上げ計上に貢献しているとの回答は8割強となっている」（図1）という。

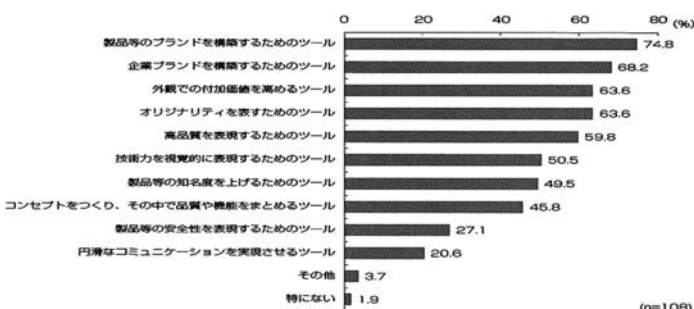
図1 事業とデザインの関係についての考え



（資料：経済産業省「デザインの活用によるイノベーション創出環境整備に向けたデザイン業の実態調査研究」）

また、「企業がデザインに期待する役割は多様になってきており、ブランドの構築、外観での付加価値の向上、オリジナリティの表現等が多く挙げられているが、これらに続いて、品質や技術力の表現や、コンセプトの提案等の役割が期待されるようになってきている」としている。（図2）

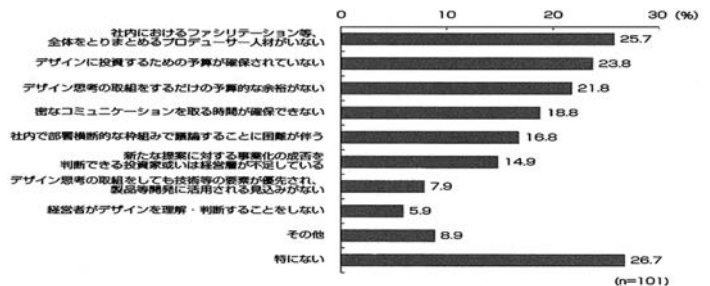
図2 経営において「デザイン」に期待されていることは



（資料：経済産業省「デザインの活用によるイノベーション創出環境整備に向けたデザイン業の実態調査研究」）

一方、「デザインをイノベーションにつなげる環境整備として、組織へのデザインマインドの浸透が必要となっている。約6割の企業がデザイン思考の導入に取り組んでいるが、デザイン思考導入に際しては、人材、予算の不足が課題となっており、社内関係者の理解が必要となっている」としている。（図3）

図3 デザイン思考を取り入れる際の課題と考えられることは何か



（資料：経済産業省「デザインの活用によるイノベーション創出環境整備に向けたデザイン業の実態調査研究」）
備考：「デザイン思考」の定義は諸説あるが、本アンケートにおいては、想定ユーザーの所作等の詳細な観察から潜在的ニーズを発掘し、複数領域の専門家がグループワークを通してのブレインストーミング等によりアイディアを拡散・収斂させ、ラビットプロトタイプング等の手法でイメージを可視化・具現化しつつ試作を繰り返し、製品開発や事業構想等を創動的に行うフレームワークあるいは開発手法を指すものと解する。

機械加工製造業

電子部品やモーター制御向け基板など電気・精密機械器具の販売は、前月比横ばい～やや増加。一部に景況感が好転した業者も見受けられた。先行きの見方は分かれ、やや増加を見込む業者がある一方、弱含みとの声も寄せられた。当月、原材料、資材価格や製品価格に大きな動きはなかった様子。雇用面で積極的な声は聞かれない。一部に設備面で積極的な声も寄せられた。

半導体、液晶製造装置向け部品の販売の前月比は、一部に「海外の事情で急激に増産」との声もあるものの、「高機能製品向けで増産しているほかFPD関連も良好だが、スマホ関連の停滞が継続しており、総じて受注、販売とも減少」など減少～やや減少との声が多い。先行きも、こうした状況が続く、ないしは弱含んでいるとの声が多い。「原材料下げ止まり」など、当月原材料、資材価格に大きな動きはなかったという。雇用面では、「技術系の経験者は募集も、派遣にて対応」「充足。予定なし」など当面現状維持の様子。設備面でも積極的な声は聞かれない。

産業機器、医療機器等部品の受注の前月比は、「産業用ロボット関連で予想以上に引き合いが好調」「新規顧客の開拓」など、増加ないしはやや増加との声も複数あるが、やや減少～横ばいとの声が多く、「産業用機械関連は急激な増産も、一部製品は急激な減産。いずれも海外の事情が影響。総じて横ばい」「業界に変化は見られない。皆忙しいようだ」「月末納期のものが動いたが、先は見えない」「全体的に動きが鈍いとの声が多い」「材料屋さんからは、盆休みが長かった分仕事が減少との声を聞く」「小型工作機械向け減少」などの声が寄せられた。先行きの見方は分かれる。

原材料、資材価格に関し、一部にやや下降との声があるものの、「特に大きな動きはない」などの声が多い。製品価格についても、「厳しさは変わらない」ものの、大きな動きはなかった様子。雇用面では、現状維持との声が少なくない中、「複数名増員。今後も複数名募集中」「即戦力なら募集」「若干増強」「増員中」などの声も。設備面では、「当面充足」などの声の一方、「今後導入予定」「次月導入。それ以降は予定なし」「若干増強」「マシンング導入。今後は自動化、省力化に必要な設備導入」などの声も寄せられた。

建築用金属製品の販売は、前月比、前年比とも減少、「前月同様発注が遅れている。都心部では、一部に動

きはは始めているものの、オリンピック関連施設とその関連民間投資が遅れている。今後予定されている物件のボリュームを考えると、この遅れが取り戻せるのか心配になる」との声。先行きも弱含みという。原材料価格に関し、「値上げのアナウンスはあるが、なかなか応じられない」との声。雇用面、設備面で積極的な声が寄せられた。

自動車向け部品の販売は、前月比、前年比ともに業者により増減分かれる。「8月の労働日数が夏季休業で少なかったため前月より受注が落ちたが、全般には、好調な車種があり増加傾向」などの声がある一方、景況感が悪化した業者も見受けられる。先行きに関する見方も分かれる。雇用面で「女性従業員に不足感がある。派遣会社でも人が足りない様子」「来春の新卒者の採用も始めたが、目下のところは動きがない」などの声が寄せられた。設備面では、一部に「ものづくり補助金等を利用して導入予定」など積極的な声も。

小型電磁機器の販売は、前月比概ね横ばい、景況感に動きは見られない。一部に先行きやや弱含んでいるとの声も。雇用面、設備面ともに現状維持との声が多い。原材料、資材価格や製品価格に大きな動きはなかった様子。

FA関連モーターでは、「産業機械向け、車載向けともにほぼ横ばいで推移」との声が寄せられた。「売上は減少」も、これは「8月は稼働日数が少なかったため」で、景況感の悪化には至っていないという。先行きも大きな動きは見込まれていない様子。原材料、資材価格がやや上昇している一方、製品価格の下降が続いているといい、この傾向は続く見込みとの声。

レンズ、光学機器の生産は、前月比、前年比とも業者により増減分かれる。「液晶の製造装置向けだけは順調に動いている。海外向けでは在庫調整が行われており、今後の動向を見たい」「基幹事業以外の分野で引き合い、受注が増えている。今後多分野からの受注を目指したい」などの声。原材料、資材価格に大きな動きはなかった様子。一部に製品価格がやや下降との声が聞かれた。雇用面で、一部に「複数名募集開始」など積極的な声がある。設備面では、「実施中。今後様子を見ながら上乘せ」「年末までに完了」などの声が寄せられた。

電気、電子製品の生産は、前月比増加、「企業向け、地方自治体向けビジネスの引き合いが拡大」など景況感も好転との声が寄せられた。原材料、資材価格や製品価格に大きな動きはなかったという。

地場産業

半生菓子、菓子原料等の売上は、前月比業者により増減分かれる。前年比は横ばいとの声が多い。「前月の反動で当月売上増加」「前年並みで動く」「次月は残暑が心配」などの声が寄せられた。「個人消費は盛り上がりがない」「伸びがない。秋の商戦が心配」などの声が寄せられたが、景況感の悪化には至っておらず、却って好転した業者も見受けられる。原材料、資材価格や製品価格に大きな動きはなかった様子。雇用面は、現状維持との声が多数。設備面では、「実施中」「年内に」など積極的な声が複数聞かれた。

水引製品の受注、販売は、前月比、前年比とも増減分かれる。「お盆用品の出荷は昨年より好調だったが、9月末までの返品状況を見ないと実数が不明な部分がある」「当月の販売は減少しているが、正月飾りの注文が昨年より若干多く入っていて、結納品等の落ち込みをカバーしている状況」などの声が寄せられた。先行きは生産の増加を見込む声が多い。「生産現場の海外移転、地元内職者の減少といった理由で、これまで作っていたところで生産できなくなり、あらたな製造元あるいは代替品を探すという傾向がさらに強まっているように感じる」との声が寄せられた。原材料、資材価格に関し、一部に前年に比べ下降しているとの声。設備面で、一部に「実施中。今後も継続」との声があ

るものの、現状維持との声が多い。雇用面でも、一部に「営業で予定」など積極的な声があるが、概ね現状維持の様子。「儀式についていえば、現在は『魚の釜中に遊ぶがごとし』の心境。儀式の本来の意味を見つめ直し、もっと前向きに行動したい」「例年秋から年度末にかけ各種イベントの依頼が来る。秋から年末は、各社多忙で悩ましいところを何とか対応している。開催時期など、事前に何とかならないものか」などの声が寄せられた。

漬物の販売は、前月比やや増加も、前年比やや減少。「野菜の価格が比較的安定していたせいか、浅漬けの動きは良くなかった」との声が寄せられた。「台風が4つ上陸した上に例年とは違うコースを進んだことなど、天候の不安定さを感じる。原材料価格への影響を注視していく」との声。「職種により募集」など雇用面で積極的な声が聞かれた。

その他製造業

印刷、出版関連の売上は、前月比減少も、前年比やや増加、「当月稼働日も少なく大幅ダウン。対前年比が多少なりとも増加していることが救い」との声が寄せられた。雇用面で、「工務系は応募者が多く、日によっては何件も問い合わせがある。一方、営業系が少ない。同業他社でも営業職の求人が目につくように思うが業界全体の傾向か。いずれにしても良い人材を求めて引き続き募集をかけていく」などの声。設備面でも「準備中」などの声が聞かれた。

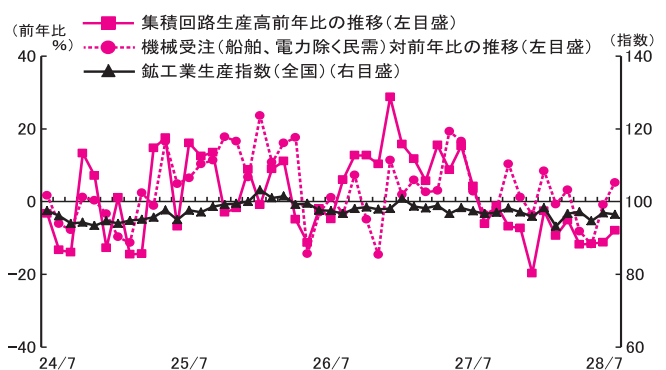
衣料品の売上は、前月比やや増加も、前年比やや減少との声が寄せられた。「百貨店の売上が落ち込んでいる。百貨店の販売は、買取から委託販売に移行してきたが、百貨店がリスクを取らないためアパレルが苦戦しているのではないか」「新規ブランドも今一つ伸びない」などの声。雇用面で「ワーカー不足は依然激しい。賃金増額、海外実習生募集などの手を打っているが、製造業に人が集まりにくくなっている。Made in Japanも維持することすら難しい、大変な時代だと思う」との声が寄せられた。設備面で積極的な声。

住宅機器、オフィス家具や店舗用什器などの家具の販売は、前月比、前年比とも減少、「盆月は例年落ち込むとはいえ、前年比の大幅な落ち込みが景気の冷え込みを表している」「今後更なるデフレが襲ってきそうな予感」など景況感も悪化との声が寄せられた。雇用面で「出産、定年などで不足感は大きい。中途採用の他、来春の新規卒者まで含めて調整を図る」との声が寄せられた。

【企業からのコメント】

- ★倒産、廃業、整理、縮小など入ってくる情報は悪い話ばかり。
- ★取引先複数廃業。
- ★精密業では半分程度の会社は良いと聞いている。
- ★スクラップの動きが悪い所が多いとの声を聞く。

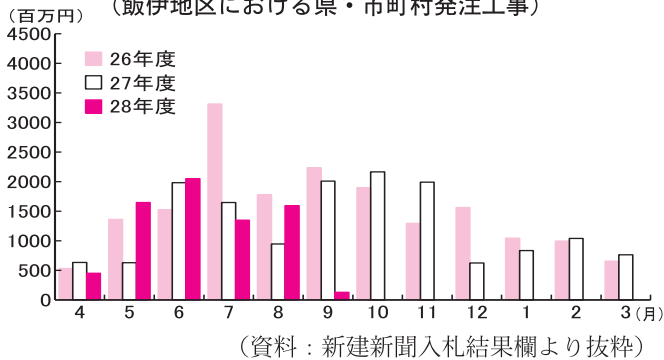
集積回路、機械受注・鋳工業生産指数の推移



建設業

月別入札額

(飯伊地区における県・市町村発注工事)



(資料：新新聞入札結果欄より抜粋)

当月景況DI -31.3 (先月 0.0)

翌月予測DI 0.0 (先月 -5.9)

官公需

当地区における、当月の県、市町村発注工事の入札額合計は、約15.9億円で、前月比は18%増加、前年比も68%増加している。

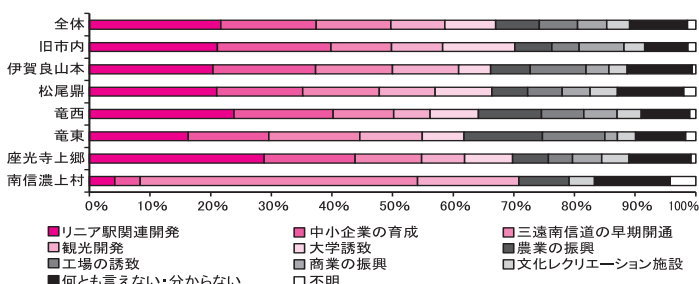
当月の調査先企業の受注残高の前月比は、増減いずれの声も寄せられたが、横ばいとする業者が多い。景況感が好転した業者は多くはないが、「8月に入り公共工事が出だした」「発注量はある程度ある」「年末に向け受注予定あり。完工高も年度当初に比べて増加」「全体的にはリニア中央新幹線関連工事も動き出してきたので、多少忙しくはなってきた」「リニア関連の工事が少しずつ動き始めており、県外業者の流入も少しずつある。活気づくのか、競争が熾烈になるのか不透明」などの声が寄せられた。

しかし、「競争激化で中々受注に恵まれない」「各社簡単には受注できない状況」「落札できるかどうかは分からないが、入札できるものは積極的に札を入れていきたい」など受注競争は「依然熾烈」との声は多く、これには、「県工事は、佐久、上田、諏訪、木曾などでは件数が比較的多いが、飯伊地域は、事業費ベースでは多いが、件数が少ない」「市町村でも、発注量が多いところは限られる」「国の発注量が少なく、従来の国発注工事の受注元が県工事にシフトしてきている」「総合評価方式の入札物件が増え、技術力の差が出ていく」といった事情があるという。

雇用面では、「下請け、パートなど外注頼み」など現状維持との声が多いが、「過剰気味」「技術者募集中」「職人さんや技術者は採用」「施工職員不足」などの声も。設備面でも積極的な声は多くはないが、「車両入替考慮中」「プログラム、パソコン購入」などの声も寄せられた。

「平成27年度市民参加の飯田市づくりを進める市民アンケート調査報告書」によると、今後10年間に飯田市にとって最も必要な施策9項目(単数回答)のうち、「リニア駅関連開発」22%、「中小企業の育成」16%、「三遠南信道の早期開通」12%が上位3回答で、他の項目は一桁に止まっているという。地区別に見ると、

あなたは、今後10年間に飯田市にとって最も必要と考えられるものは何だと思いますか(単数回答)



(資料：飯田市「平成27年度市民参加づくりを進める市民アンケート調査報告書」)

座光寺上郷で「リニア駅関連開発」が29%を占めるほか、南信濃上村で「三遠南信道の早期開通」が46%を占めており、「身近な地区の願いが表れている」としている。

民需

当地区の7月の住宅着工戸数は58戸。前月比9%減少も、前年比は9%増加している。

当月の調査先業者の受注残高の前月比は、減少～横ばい。「民間も多少増えてきた」との声もあるものの、「住宅改修工事のみ」など景況感が好転した業者は見受けられない。

雇用面で、「絶対数が少なくなったのか、リフォームを含めた住宅の工事量が多いのか原因は分からないが、大工職人に仕事を依頼しにくくなっている」という。

一部に資材価格がやや上昇との声が聞かれた。

建設資材

建材、塗料等の売上は、前月比、前年比とも横ばい～やや増加。「人手が不足気味。増員したいが」「大手ハウス、プレハブメーカーは受注が結構あると思う。一方、地元工務店、建築店は苦労している」などの声。仕入に関し「針葉樹合板品薄。年末まで続くのでは」との報が寄せられた。

鋼材の売上は、「営業日数の関係」もあり前月比減少との声。前年比は増加というが、「景気を牽引する好調な業種も見当たらず沈滞ムード」など景況感は悪化との声が寄せられた。「秋需期待の声もあるが裏付けはない。先行き不安は相変わらず。流通としては弱気な姿勢にならざるを得ない」との声。「鋼材相場は弱含みの横ばいで推移」という。

生コンの売上の前月比は、業者によって増減分かれる。「工事が思うように進まない状況。打設工事が先延ばしになり出荷量低迷」など「当地区出荷量の7割を占める」官公需の出荷は「少ない」ものの、「今月は民需が46%を占め、且つ建築が50%と民間建築工事(工場等)が多く、出荷量増」との声も。「次月は公共工事が少なく、民間建築工事も終わり、低調な出荷に止まると予想」との声が聞かれた。

骨材等の売上は、前月比業者により増減分かれる。「生コン向け出荷が多かった。前月に比べれば良いが、依然出荷は少ないまま」「8月は最低」などの声。「年度当初から鈍かった公共土木も年度末に向けそれなりに出てきた感。三遠南信自動車道のコンクリート舗装なども始まり、生コンの動きも酷い状況からは脱してくるのでは」との声が寄せられた。

【企業からのコメント】

- ★不況という言葉に流されないでビジネスチャンスを開いていきたい。
- ★リニア関連で早いものが動き始めた。最初は地域差があるだろうが、徐々に活性化してくるものと思われる。
- ★長期に考えると、医療福祉分野はともかく、公共投資は減少すると思われる。建設業に捉われない、社会に必要とされる分野、仕事へと変わっていききたい。

住宅建築確認申請受付状況(※本誌調査による概数)

8月 ○下伊那地方事務所

新築 9件 (前年 10件)

増築 2件 (前年 7件)

○飯田市役所分

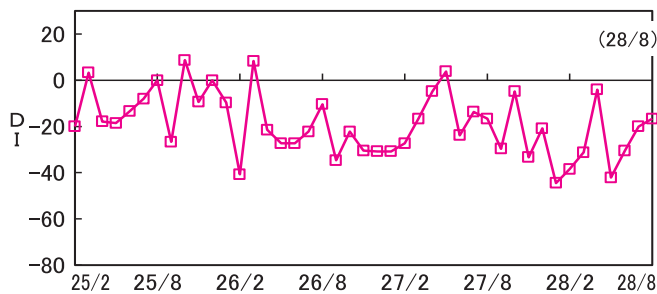
新築 18件 (前年 17件)

増築 1件 (前年 0件)

※指定確認検査機関分を含む

商業・サービス業

商業・サービス業DI



| | |
|--------|------------------|
| 当月景況DI | -16.7 (先月 -20.0) |
| 翌月予測DI | -8.7 (先月 -14.3) |

商業

食品品の売上の前年比は、業者により増減分かれる。「客数が前年より大幅増加」「今後も良い方向に向かうのでは」との声が寄せられた一方、「夏の有効な対策が立てられず売上は前年比減少」「猛暑であったが盆時期のビール等の動きが少なかった」「依然として野菜の高騰・品不足が続いている」などの声も聞かれた。

【青果卸売市場】

売上は前月比増加、前年比は減少、「盆月にも関わらず青果物の消費の冷え込みが大きな要因」など、景況感は悪化との声。野菜は「昨年は品薄高値であったが今年は高温が続く消費の減退が今までになく続き、価格は白菜37%、レタス58%、ナス66%、キャベツ72%、きゅうり73%等々主力商品のほとんどが大幅な安値。全体では入荷量5%増で価格は17%安」という。果実は、昨年同様前進出荷となったが、価格の低迷は果実も同様でりんご70%、梨・桃90%で全体では入荷量8%減の価格は12%安であった」との声。

製菓、製菓用品卸の売上は、前月比やや減少、先行きはやや増加を見込んでいるという。

家事用品卸の売上は、前月比やや減少、前年比がやや増加していることもあって景況感は好転しているものの、「景気の回復を実感するにはなかなか至らない」という。「菓子類の欠品があり発注通りに入荷しない時が多い」との声がある。仕入に関し、「紙類は少しずつ上昇」「乳製品の値上がりとの声もある」などの声。雇用面で「社員を募集しているが、ハローワークからもなかなか紹介がない」との声が寄せられた。

家電の売上は、前月比やや減少～横ばい。前年比はやや減少という。「小型の家庭用エアコンは高機能、高額商品が好調」という。「エコキュート、石油給湯器はハウスメーカーからの支給品が増えて苦戦」「太陽光発電は売上の無い月もあり販売する商品ではなくなった」等の声。

OA機器の売上は、前月比概ね横ばい、前年比は増加との声。「来年度の予算取りに向けての提案に注力する」という。「当地域では同業者の事業内容に動きが見られそう。県内では倒産や大型店舗の出店などの動きがある」との声が聞かれた。

衣料品の売上は、前月比、前年比ともにやや減少。「売上は若干厳しい状況になってきた気がするが、あまり大きく変わった様子はない」「一人あたりの売上高が減少傾向」などの声。

娯楽用品の売上は、「夏休み、お盆」もあり前月比増加も、前年比はやや減少との声。

土産物関連の売上は、前月比やや増加。景況感は分かれ、一部に「来訪者減少。また、客単価も減少傾向にある」との声も。「阿智村は、スタービレッジ以外は前年比減少では」との声も聞かれた。

運輸業の売上は前月比横ばい。雇用面で「今後の見通しは厳しい。募集媒体を増やす」との声が寄せられた。

松本自動車検査登録事務所管内の自動車新規登録台

数は、新車は前月比18%減少、前年比も9%減少。中古車は、前月比3%減少、前年比も1%減少。7月の県全体の軽自動車新規登録台数は、新車は前月比3%増加も、前年比は2%減少。中古車は前月比17%減少、前年比も3%減少。

サービス業

市内料理店の売上は、前年比やや減少。「8月は暑さの本番で、月初めの宴会等の出足が悪く心配したが、中～後半は例年通りの推移で最終的には微減でくいと止めた感。取引先の話からすると、景気はかなり悪いようだ」「前月に比べ宴会が少なかった。また、お盆の仕出しの注文が少ない。特に地方の景気は悪くなるのでは」「節約志向からかフレンチ・イタリアン店では低価格が始まった」などの声が聞かれた。仕入に関し、「暑すぎて天然ものの魚が少ない」「台風の影響で北海道、岩手の魚が入荷なし」などによる「価格上昇は痛手」との声も。「9月は祭りが目白押しのため宴会自体が減少しているようだ」との声も聞かれた。

屋神温泉の売上は、前月比、前年比ともに増加。「毎年の夏休み期間に加え星空ナイトツアー分が上積みされたため売上増加」など「星空ナイトツアー」による売上増加の声が多数。「テレビの影響で関東地方のお客が多く、若い二人組や小グループ、一人旅も多い」「毎日満館状態が続いている」という。これに関し、「好調なうちにこのツアーの内容をさらに充実させて、特に曇りや雨の日対策を講じていく必要を感じている」などの声。一方で「単価は安く案内にも手間がかかり儲けは薄い」との声も寄せられた。雇用面では「相変わらず人手不足のまま。今後の紅葉シーズンに向けて人材確保に力が入る」との声。

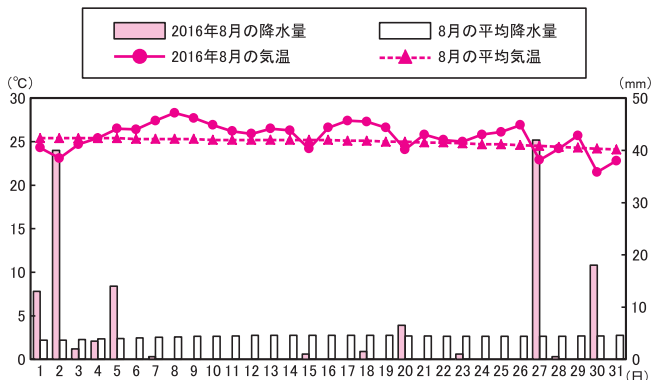
旅行代理店の売上は、前月比横ばい。「夏休みを利用した家族旅行などは沖縄、国内テーマパーク、グアムなどが中心で前年並みの売上」という。「秋の個人団体旅行の相談は増加しているが、実績として残る部分は相談数より大幅に減少する見通し」との声。方面別では「国内では、真田丸関連の上田、サミットが行われた伊勢志摩、北海道新幹線など、話題性のある方面が引き合いに出された。海外は、個人・小グループでの動きが多い」という。

タクシーの売上は、前月比、前年比ともにやや増加も、「前年対比の落込みは落ち着きを見せているが、前年までの激しい落ち込みからの上向き感は一切感じられない」との声。「タクシーに乗らなくてはならないお客様、他業種の公共交通との価格差は埋められないことを考えて、タクシーしかできないサービスを展開していくことが必要」との声が寄せられた。

【企業からのコメント】

- ★公共交通業者として、お客様にとって何が重要であるかを経営に生かしていかなければならない。
- ★東海地方の業者が日帰りナイトツアーを募集し大型バスが毎日数台、多いときは7～10台来ている。

飯田の気温と降水量



斜視 (ナナメ) 力のすすめ (30)

しんきん南信州地域研究所
主席研究員 井上 弘司

「斜視力のすすめ」の連載も30回となりました。

この間、中越地震から復興した山古志村(斜視力15)に始まり、東日本大震災の被災地、県内の小谷や白馬、長野市などの地震被災地、さらに本年の熊本地震の現場に立つなど、大地震被災地も全て廻りました。

アニメやゲーム、映画ロケ地の聖地巡礼や地方それぞれの歴史文化、そして地場産業や観光振興、開業前の北海道新幹線など全国各地取材してきました。

今回はそうした取材を振り返り、特に南信州に必要と思われることを再度ピックアップしたいと思います。

■中山間地域の最大の課題を克服するために

私達のふるさと飯田。そして周辺の町村は、全国の中山間地域と同様に人口減少や少子化、高齢化という大きな問題に直面しています。日本の中山間地は豊かな森林や水資源を有しているのに、都市住民はおろか地元で暮らす人たちさえ、その価値を正しく評価していないために、大切な国土を海外の投資家が買い漁っています。

これからの地域社会デザインは、経済のスケールメリットではなく、地域の暮らし方の価値を創造することです。自然や食、文化の多様性から暮らしを楽しむ「暮らし方」を内外に伝えていくことで、「真に豊かな地域とはこういうところ」と認識してもらうことが重要なのです。

国が旗を振る「地方創生」の目的は、自分の地域を本当に暮らしやすくすることです。つまり、自分達の生活環境を良くすれば移住・定住が発生するわけで、金を払ってきてくれとお願いするものではないのです。補助金や借金で派手な施設を整備したり、大都市のような便利さを追求することで住民が増加するわけではありません。

必要なのは「ここで暮らしたい」と思わせる、ごく普通の生活文化と暮らし続けるための「なりわい」が存在することです。それは一朝一夕に形成されるものでもありませんが、今それをやらなければ、本当に地域は消滅します。

長野県小谷村大網集落で、「限界、消滅集落などと呼ばせない！若い世代を受け入れ、逆三角形の人口構成を正三角形にする。百人で維持してきた集落が50人になったとしても集落が存続できるような、発展的縮小を目指したい」と私に語った人がいました。

この人のように地域内で引っ張るリーダーがいると良いのですが、限界集落の汚名を受け入れているところでは、「地域のために活動できる人」が存在していない、『要介護地域』になっているケースが多く見受けられます。

■地域を疲弊させる学校・保育園の統廃合

平成の大合併以降、小中学校の統廃合が全国で毎年400件を超えています。身近なところでは保育園の統廃合もあります。いずれも国の制度改正と助成金交付金の減額が影響していることと、住民が人口減の危機感をもっていないことが大きな要因です。

あるところで、保育園が統合されることについて「今の場所に保育園があるから我が子を預けてパートに行けるが、遠くなれば仕事を辞めないといけない」と子育て中の母親に聞きました。これでは「女性の活躍」どころか、共働きさえできない貧困家庭づくりになりかねません。「子どもが学校に通う年齢になったので、自分が生まれ育った環境の良い田舎に引っ越してきた。なのに自分が通った学校が無くなれば、Uターンした意味が無くなる」という話も聞いたことがあります。

地域創生とは、地域に帰ることができる、好きな地域で暮らすことができるようにすることですが、肝心の自治体自身が帰る魅力を削ぎ、働く環境を悪くしているのでは、どれほど素晴らしい再生計画を立案しても画竜点睛を欠きます。予算が無いから統合するということは、行政効率が悪いから「ここには住まないでください」と言っていることと同じでしょう。地方創生は、子どもを増やすプランであり、子育てしやすい地域を創ることが目的のはずです。予算配分を次世代の担い手づくりにシフトすることが、帰りたい、住みたい「ふるさと」を創ることにつながる。今の大人たちの大切な役目でしょう。

■全世代・全対応型の地域包括支援－地域防災と地域福祉は一体計画で

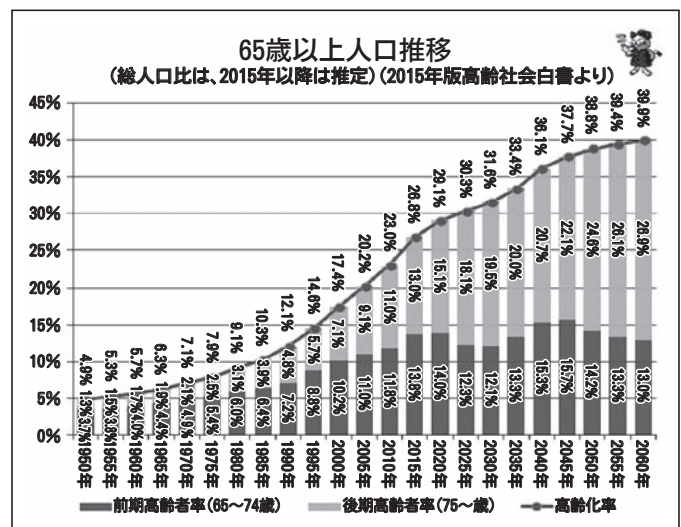
2060年、日本の高齢化率は39.9%になるとの推計があります。これはあくまで日本全体のことであり、私たちの地域は50%を超えているかもしれません。「年寄りばかりで動けない。もう構わないでくれ。頑張れと言われても無理だ」と、自ら動かない集落や地域もありますが、それらのほとんどは、行政がサービス業を自称して高コストの依存体質を作ってしまったことが原因です。とはいえ、過疎化や高齢化を嘆き、ただ行政に依存するのは問題です。最近、高齢化率50%を越える集落や地域でも、創意工夫を凝らし、公益的任務を担って集落の維持保全に努めている地域が増えています。

中山間地域の最大の課題は、地域防災と地域包括ケアシステムだと思いますが、行政組織ではそれぞれの部署が独自に実施していて、連携は見られません。

いざ災害となったときには隣近所の支え合いが命綱となります。そして、支え合いが重要なのは、日常の高齢者の見守りも同様なのです。

しかし、行政の防災担当は地域包括ケアのことは知りません。福祉担当は、「防災は自分の管轄ではない」と思っています。さらに、買い物難民や空き家の対策は、これまた各々別の部署が所管します。

つまり、自分の暮らしは一体なのに、細分化された行政に丸投げして面倒みてもらうこと自体が危険なのです。だから、集落や地区が自ら、そして最低でも「防災と福祉を一体で」計画することが大切となります。



■地域おこし協力隊の課題

「田舎に移住する若者たちが増加している」とマスコミで取り上げられると、何となくそうなのだろうと思ってしまいます。

国が推進する「地域おこし協力隊」などはその先頭を走っているものですが、本当の実態は直接、協力隊員と話をしないと分かりません。ともすると国が金を出してくれる都合の良い臨時雇いとして、本来は地元を良く知

る自治体職員がすべき業務をまったく未知の隊員に丸投げしたり、単に集落の草刈りや生活支援要員として雇用し、夢を持って移り住んだ隊員の人生を潰してしまう自治体もあるのです。

協力隊の本質は受入地域に定住してもらうことです。隊員が自活して暮らせるための準備期間が3年間ありますが、任期中に自分の活動から仕事を模索し、暮らし続けられる環境づくりをしなければならないため、隊員自身にも相当なプレッシャーがかかります。

若者が地域に入っても数年で出てしまうということは、「その地域には若者は住めないというレッテルを自分で貼るのと一緒」ということが、担当職員だけでなく、行政の幹部やトップに理解されていないように思います。

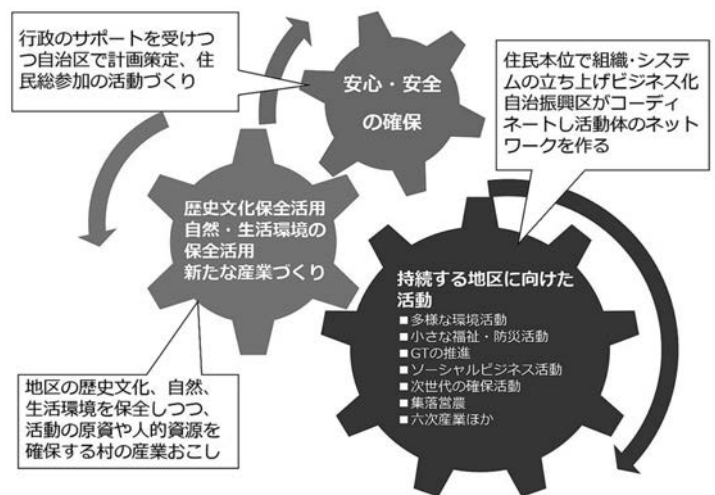
行政の「田舎は住みやすいよキャンペーン」に応じ、正確な情報もなく移住した人が、「金は要らないと思ったら、区や自治会、その他で集金がある。何かの出役が毎週のようにある」と憤慨しています。行政職員はそれが普通だと思っているのですが、相手がどう思うか想像できず、悲しい出来事になってしまうケースも多々あるのです。

事ほどさように、コミュニティの常識はコミュニティの中でだけ通用するにすぎず、外部からは理解できないばかりか共感もされないことも多いのです。井の中の蛙にならないような努力が求められます。

■自らを支援する地域還元型組織

今までは給与水準が高かった団塊世代が福祉財源を支えていました。その団塊の世代も引退し福祉を消費する世代になります。すると、負担する人が減って、福祉予算が大幅に増える状態になります。つまり、若者が負担していると喧伝されてきた福祉の財源は、実は「若者+団塊の世代」が支えてきたわけで、団塊世代が消える10年後は、本当に若者だけで支えないとならない危機的状況がやってきます。現在の若者は給与も低い上に、人口減で経済は縮小していきます。ただでさえ借金を先送りしている国の体力も当然弱り、誰も支えてくれない、厳しい時代がやって来るのです。

人口減少や高齢化は待たなしでやってきます。しかし逆転の発想で見れば、福祉分野は、量的・質的に確実な雇用や関連ビジネスの宝庫と言えます。現在の福祉施設の劣悪な環境を克服し、経済的にも魅力ある就労環境を創り出すために、飯田市千代地区のように、地元で資金を集め、投資し、循環させることで誰もが暮らしやすい地域を創れば、人口減少を食い止める大きな要素になるでしょう。



そう考えれば、地域共生社会と地域経済がイメージとして繋がるのではないのでしょうか。

組織には、「地縁のコミュニティ」と「目的があるコミュニティ」が存在します。いずれも、新たな価値の創造はコミュニティ内の関係性の中でしか生まれません。

そこでは、コントロールするのではなく、連携する集落に寄り添いながら、地区の大局的な視野からコミュニティ内の『価値』を評価しつつ新しい知を生み出す、共創者としての行政の関わり方が重要となります。行政には、地域に内包するニーズ（必要性）やウォンツ（欲求）を掘り起こす活動を支援するほか、臨機応変に他の多様な主体との有機的連携を促すことが求められるでしょう。

また、地区の多様な主体を吸引し、コミュニティをマネジメントしつつ、次世代の人材育成や住民主体のまちづくりを推進していく、「新たな結い」機能を持った中間支援組織が必要なことも言うまでもありません。

とは言え、こうした組織の運営には財源と人材が要となります。地区にノウハウがなく人材が居なければ、外部からのアドバイザーや協力隊員を招聘することも考えなければなりません。地域事情が不明なままでは人材も威力を発揮できません。すると、活動に梃子入れできる外部アドバイザーには地域のキーマンが、移住・定住してきた若者には地域のメンターが不可欠です。

■地域還元型イノベーションを起こす

全国の自治体では、高齢化社会の進展に伴い福祉予算が自治体財政を圧迫しています。一方国は、財政赤字を減らすべく補助金や交付金を削減する方向にあります。

このため更に地方自治体の赤字が拡大し、快適な暮らしへの投資が滞り、地域の魅力が減少し、若年層の流出が止まらなくなっています。

宮本常一の父、善十郎は、「これから先は、子が親に孝行する時代ではない。親が子に孝行する時代だ。そうしないと世の中はよくならぬ」と言って、常一を激励し続けました。

逆三角形の人口ピラミッドを見れば分かります。圧倒的に若者が減少しています。行政に何とかしろと言いながら、我が子を都市に送り出し自分たちで首を絞めているわけで、それが地域の生産人口の減少から、地元産業の衰退という底なし井戸に落ち込むことになります。

地域に若者を留めたいのなら、資金やノウハウを提供して支えなければ、若者は地域の担い手として暮らせません。地域の未来を考えて、高齢者の方々が金を出し合い、「孫・子育て講」とか「若者仕事おこし講」などを作ってみてはどうでしょうか。

地区の存続は「自分たちの孫や子」を地区に戻すことに係っています。Iターンに期待しても、日本全体に若者が減っている現状では無理があります。今いる孫や曾孫の地元愛を育てることが一番大切なことです。そして地域で暮らすための「稼ぐ仕事」が重要になります。農林業だけで食べられないなら、食べられる工夫や地元根ざした新たな仕事を創る。その素材は地区に山ほどあります。

執筆者 井上 弘司 (いのうえ ひろし) : 1952年飯田市生まれ。飯田市エコツーリズム推進室長、産業経済部企画幹、企画部企画幹を経て2009年3月退職。現CRC地域再生診療所所長、NPO法人しんきん南信州地域研究所主席研究員。観光カリスマ百選(国土交通省)、地域活性化伝道師(内閣府)、地域力創造アドバイザー(総務省)、地域再生マネージャー(ふるさと財団)。

「NPO法人 しんきん南信州地域研究所」は、地域の情勢分析や政策提言、情報発信などを目指して、飯田信用金庫を主体として設立された地域シンクタンクです。地域の皆様の交流の場としても広く解放しております。お気軽にお立ち寄り下さい。

■所在地 長野県飯田市知久町1-9 まちカンビル2002
■在籍研究員 井上 弘司 安藤 隆一
■TEL 0265-59-7701
■FAX 0265-59-7701
■E-mail think-t@mis.janis.or.jp

飯田信用金庫では、2名の専門アドバイザーによる継続的な事業支援を行っています。

今回本誌執筆を担当する当金庫専門アドバイザー 小泉 敏郎 は、工場、営業、企画など製造業の各部門を経験し、取締役、社長として経営にも携わった経験を基に、皆様の工場等を拝見し、お話を伺った上で、多角的な視点から、皆様の課題の解決に向けた取組のお手伝いをさせていただきます。

ご用命は、飯田信用金庫 経営相談所（飯田市本町1-2 飯田信用金庫4階 TEL 0265-53-5811 FAX 0265-53-1132）まで お気軽にお申し付けください。

流れ雲の目（13） 血液型マネジメント

飯田信用金庫 経営相談所
専門アドバイザー 小泉 敏郎

貴方は何型ですか？と血液型を聞かれることがある。

血液型による性格の傾向を信じる人と、まったく信じないと言う人とに別れるが、私は血液型が心身共に影響していると思っている。

世界には数多くの違う肌の色、骨格、風習の違う民族が存在している。見るからに異質の人間同士間でも輸血ができる。なのに、同じ日本人で、同じような体型、同じような顔つきをしているにも係わらず輸血ができない間柄もある。ここから私の疑問が芽生えた。

私は学者でも医者でもないから過去の経験則で話をしていきたい。ということで、信じるも信じないも貴方にお任せ致します。

血液型は通常4種類に分けられているが、ここでは6種類に分けてみたい。O型 AA型 AO型 AB型 BB型 BO型 の6種類だ。

AO型とBO型は、A型またはB型とO型の含有比率が1：99～99：1まであり、A型またはB型として一括りに語ることは難しい。同様に、AB型はA型とB型の含有比率が1：99～99：1まであって、殆んどA型に近い人から逆に殆んどB型に近い人まで幅広く、その性格を大きく異にしている。

ものの本によると、ホモサピエンスは当初はすべてO型であったが、長い年月を経る間、気候、環境、地理その他いろいろの要因で、AあるいはBの因子が体に付着して何らかの働きをしてO因子に突然変異を起こさせ、AO型またはBO型が派生した。その後、AO同士あるいはBO同士の結合でAA、AOまたはBB、BO型ができ、そうしてAO、AA、BO、BB間の結合結果としてAB型が出現したとある。

現在では同じ血液型しか輸血はしないが、戦後の教育ではこのように習った。

O型はすべてに輸血可能であるが、O型からしかもらえない

AB型はAB型にしか輸血できないが、すべてからもらえる

A型はA型とAB型に輸血可能であり、A型とO型からもらえる

B型はB型とAB型に輸血可能であり、B型とO型からもらえる

前述のとおりO、A、B、のそれぞれの因子の組み合わせを考えると膨大な種類になるから、とても一言で（6種類で）性格分析などできないことは明らかである。とはいえ、人の行動とか思考の性向という限度なら共通要因は十分に認められ、大きく影響している人と影響力の少なそうな人はいるものの、20～30%程度は関連していると私は思っている。

友達数人（客先、上司、先輩等を除く）と昼飯を食べに行く場合、どこに行こうか、何を食べようか、ということになるが、殆んどのケースでB型かO型の人の意見に決まっているように思う。カラオケをする場合も、最初にマイクを手にするのはO型かB型では？ お客、先輩、上司とか、歌に自信があるとかないとか等の要因を外し、同じ立場の仲間内に限る話ではあるが。

守りに強く打たれ強いのはA型とか、攻撃力があるのはB型とか、やはり共通要因はあると思える。ゴルフ、野球その他スポーツの有名選手はB型が圧倒的に多い事実は皆さんもご存知の通り。

このように見ると、この共通の因子による共通部分を理解し傾向と対策を考えれば、人間社会における相互の関係に十分役に立つはずである。

昔、私の課長時代、殆んど同年齢、30歳前後の主任クラスの部下が10人程いた。その中に4種類の血液型の人間がバランスよくいたのだが、これらの部下に私が同じ指示をしても同じ結果を得られなかったことがある。

納期を言わなければなかなか持ってこない者達、すぐに持ってくる者達。指示した内容だけの者達、プラス α の資料を持ってくる者達。いろいろな場面で、部下たちに共通する傾向が見られた。血液型だけで判断し結論を即断しているわけではないが、やはり30%程度、血液型の共通性が考えられる。

そこで部下や上司、客先の重要人物など、仕事に係わる人たちの血液型を調べ始めた。

部下の血液型はすぐに調べが付いたが、客先の人にはすぐに直接聞くわけにもいかず、会話をしている中から私なりにその人物の血液型を判断し、その後話題を変えて聞いてみたりした。経験を重ねて相手の血液型が当たる確率が高くなり、間違いなく共通要因があると自信を深め、その後のビジネスにも大いに役に立った経験がある。

人間には、先天的に持っている性格と後天的に出来上がる性格とがあるが、血液型要因は基本的には先天的要因なのだろう。不思議なもので、自分の血液型を自覚しその性格傾向を理解した人の場合、後天的要因が大きく影響して、行動や思考傾向からではその人の血液型が分かりにくいことが結構ある。

相手の立場、性格、癖を知ることは、すべての交渉事に於いて、有利にこそなれ、不利になることはない。

部下に指示する時、叱る時、上司は一律に行動するのではなく、相手に合わせ一番効果のある命令、指示を下すべきである。客先に対しては、相手の気持ち性格を理解した上での行動が相手の懐に飛び込む一番の近道ではないか。

人間社会では、ビジネスに限らず友達、近所の付き合いも含めて、己の性格を十分に把握し相手の性格を知ることが最優先事項ではないだろうか。

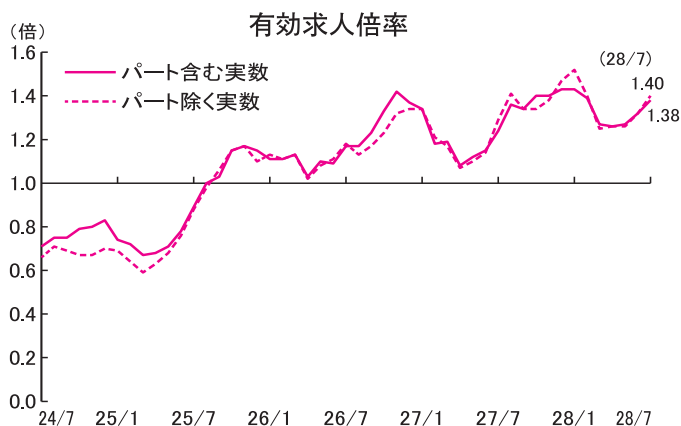
血液型思いやり循環図

O型→B型→AB型→A型→O型（O型はB型の奥さんや部下を好む傾向にある）

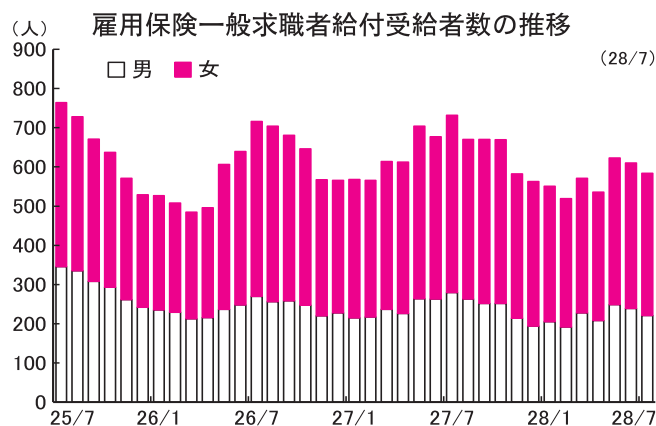
貴方の血液型は？ 奥様の血液型は？

人間の性格構成上20%~30%もの共通要因は、血液型以外には中々見つからないと私は思うのだが、皆様のお考えは如何でしょうか？

雇用の状況



7月の月間有効求人倍率は、パートを含む実数で1.38倍と、前月から0.06ポイント上昇。パートを除く実数は1.40倍で、前月から0.08ポイント上昇している。



7月の雇用保険一般求職者給付の受給者数は前月に比べ、男性は18人減少、女性も8人減少しており、全体では584人と前月から26人減少している。

(資料：ハローワーク 飯田)